

倶多楽の火山活動解説資料（平成 23 年 10 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。
登別市によると、大正地獄では満水で少量の熱水流出が続いています。また、2007 年以降泥混じりの熱湯の噴出が時々発生していますが、この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-②）

今期間火山性地震は観測されず、地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

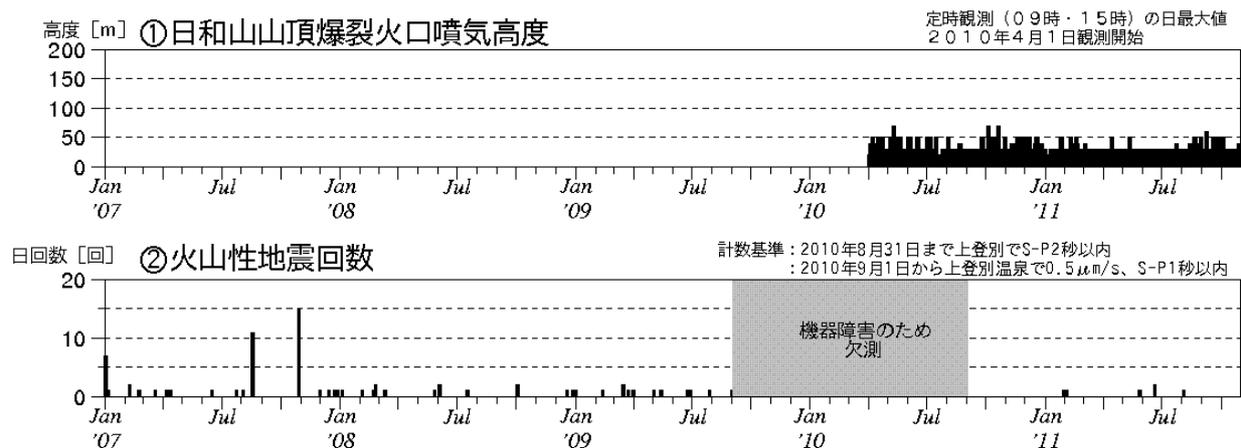


図 1 倶多楽 火山活動経過図（2007 年 1 月～2011 年 10 月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 11 月分）は平成 23 年 12 月 8 日に発表する予定です。

※資料は気象庁のほか、北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。



図2 倶多楽 日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
(10月31日、414m山遠望カメラによる)

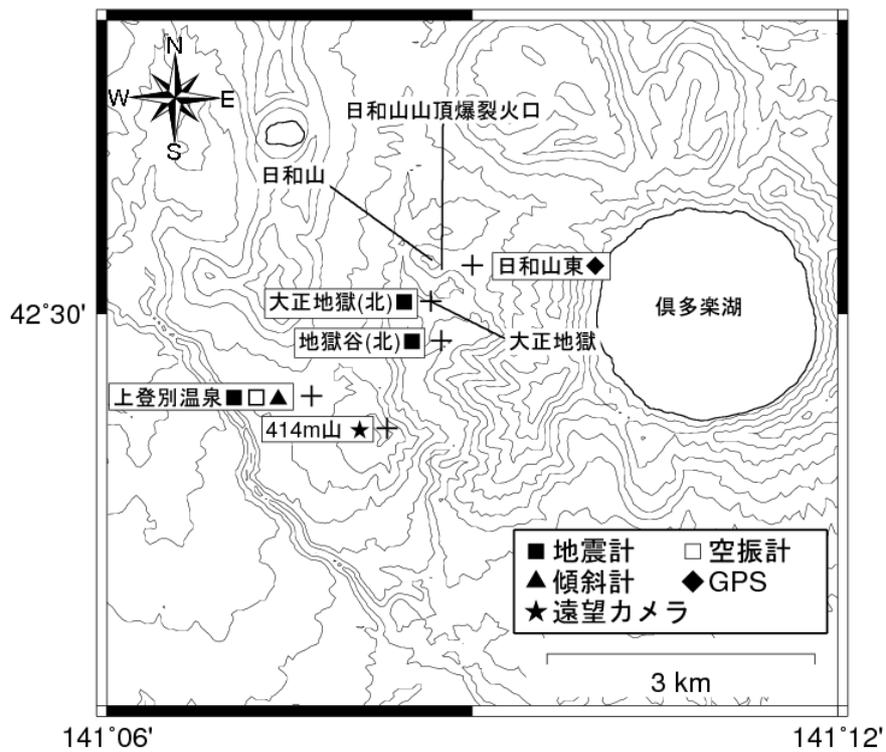


図3 倶多楽 観測点配置図

＋は観測点の位置を示す

他機関の観測点には以下の記号を付している

(北)：北海道大学